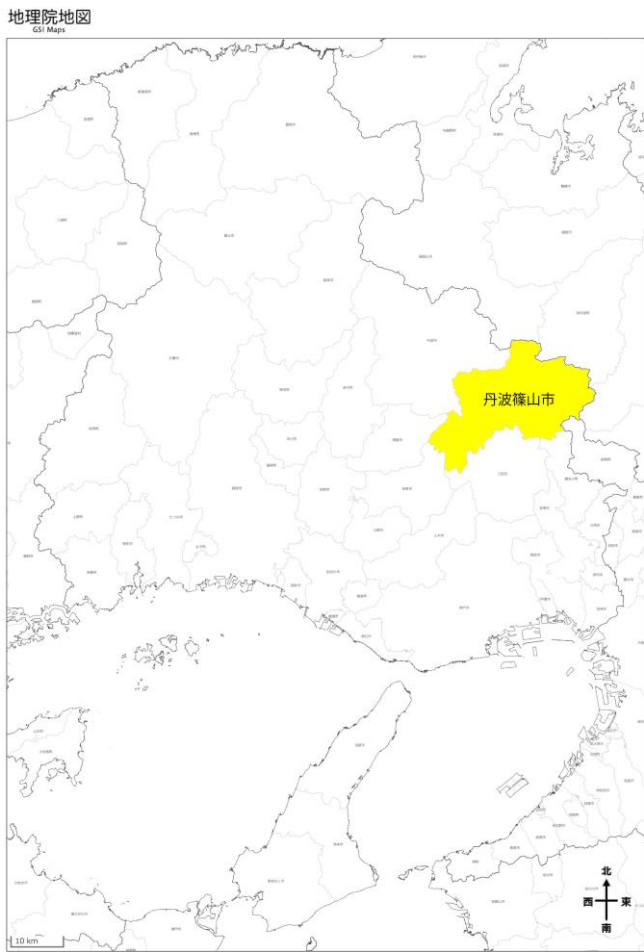
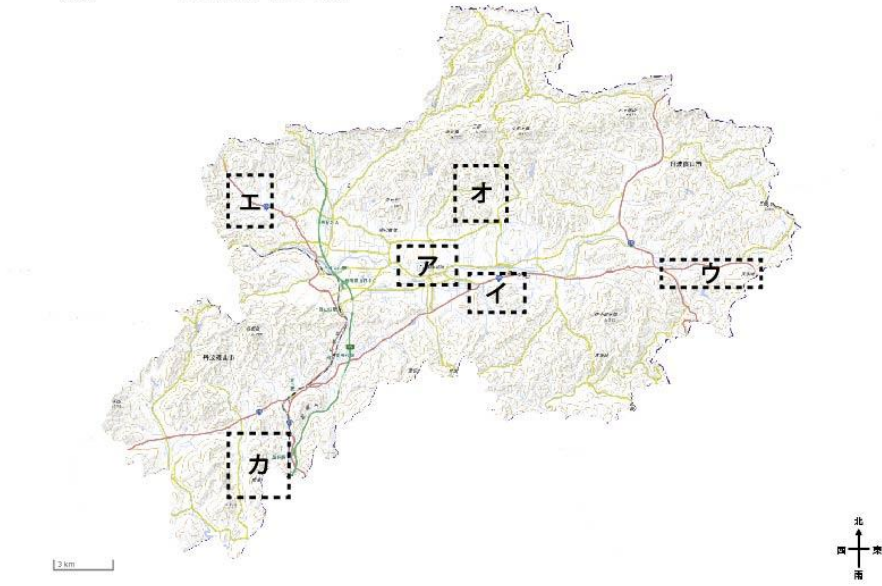


① 申請者	丹波篠山市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
丹波篠山 デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶-			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
かつて城下町として栄えた丹波篠山の地は、江戸時代の民謡を起源とするデカンショ節によって、地域のその時代ごとの風土や人情、名所、名産品が歌い継がれている。 地元の人々はこぞってこれを愛唱し、民謡の世界そのままにふるさとの景色を守り伝え、地域への愛着を育んできた。 その流れは、今日においても、新たな歌詞を生み出し新たな丹波篠山を更に後世に歌い継ぐ取組として脈々と生き続けており、今や300番にも上る「デカンショ節」を通じ、丹波篠山の街並みや伝統をそこかしこで体験できる世界が展開している。  			

市町村の位置図（地図等）

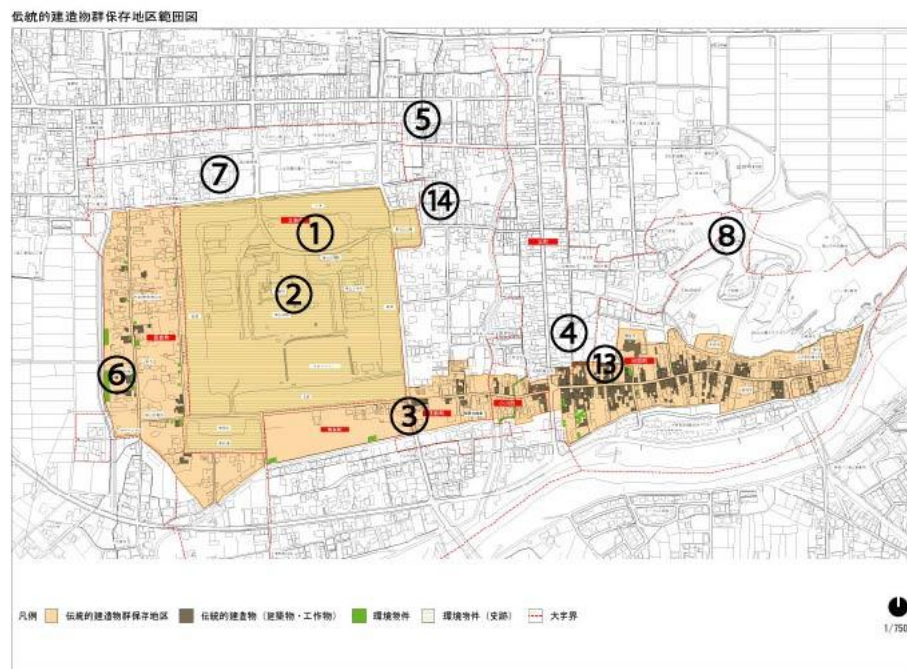


地理院地図 丹波篠山市全図

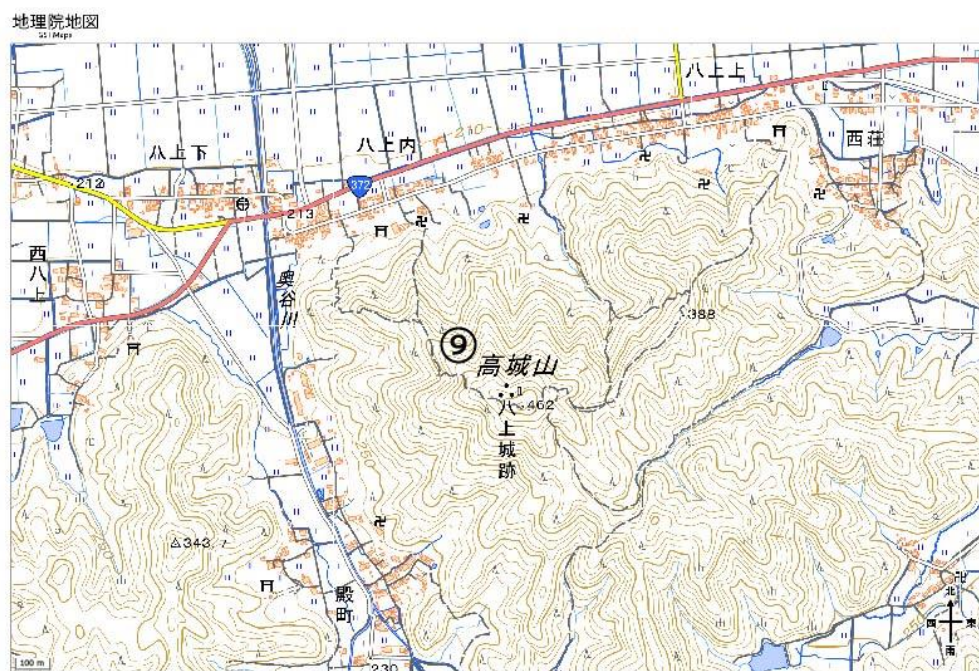


構成文化財の位置図（地図等）

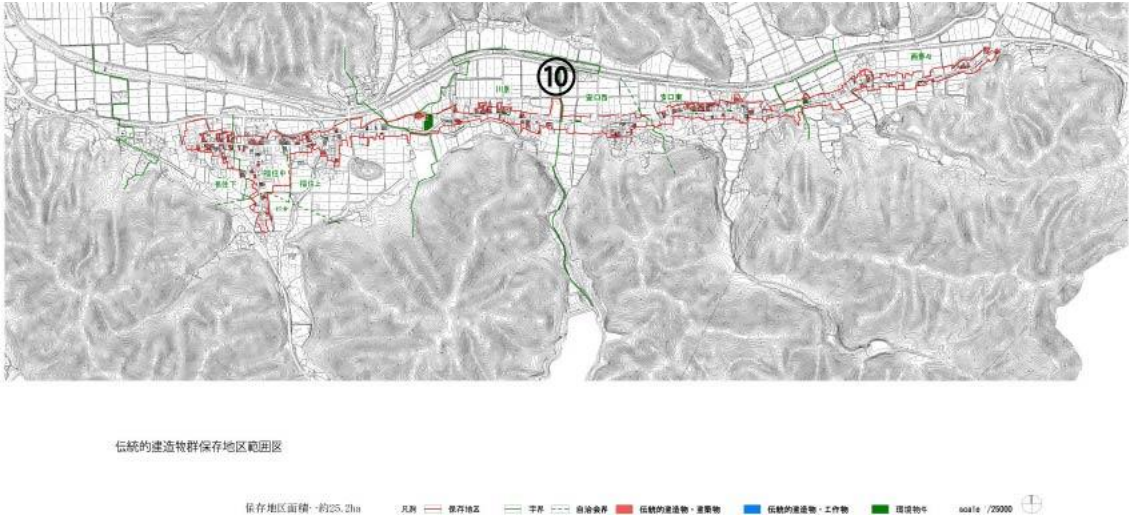
ア 城下町地区



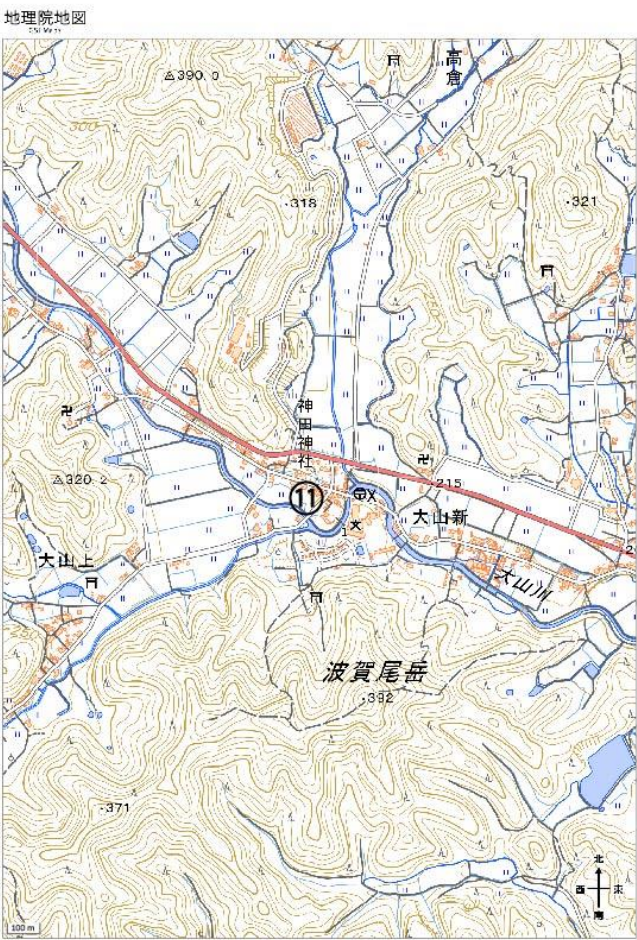
イ 八上地区



ウ 福住地区



エ 大山地区



ストーリー

デカンショ節と伝統の生きるまち

大阪から電車に乗り北へ約1時間、さらに篠山口駅からバスで東へ5キロ、逞しい緑の山々に囲まれた盆地、これがデカンショ節の発祥地丹波篠山である。中央に天下普請で築かれた篠山城があり、天守台に立てば、去り難い情懷を誘う町並みと山並みを一望することができる。城下町を中心に、宿場町、農村集落、窯業集落などの町や集落の景観、全国的にも著名な黒大豆や山の芋などを生産する田畑、緑豊かな山林や山並み、オオサンショウウオの棲む清流、京文化や播磨地方の影響を受けた様々な形態をもつ祭礼などの伝統文化を含む重層的な歴史や文化が伝えられている。デカンショ節は、こうした伝統の生きるまちの中で、人々が200年に亘り、その時々を思いを込めて育んできた民謡である。



デカンショ祭(篠山城跡)



春日神社能舞台 元朝能

デカンショ節の由来と変遷

囃子言葉の「デカンショ」の語源は「ドッコイショ」が転化したものなど諸説あるが定かではない。その始まりは、江戸時代から歌われていた盆踊り唄「みつ節」とされる。かつて盆踊りは一年中続く厳しい農作業や労働に明け暮れた人々にとって、かけがえのない楽しみのひとつであり、夜明けまで歌と踊りが途切れることはなかった。このころの歌詞は素朴なものが多く、自然の情景に農婦の糸紡ぎや焼物の作業工程などの様子を織り交ぜたものなどが見られる。

明治に入ると、篠山藩主や多くの家老たちは、東京に居を移すこととなる。デカンショ節の筆頭に歌われる「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で 芝居する♪」はこの頃のことを歌い込んだものと思われる。

明治31年(1898)の夏、千葉県館山の江戸屋(旅館)において遊学中の篠山出身の学生たちから旧制一高(現東京大学)の学生にデカンショ節が伝わり、多くの若者達の共鳴を受けたデカンショ節は全国各地に広まっていく。



波々伯部神社の祭礼

「一弦の琴」(宮尾登美子著)や「一高ロマンス」(大佛次郎著)には、学生

たちの間で愛唱される様子が描かれている。こうして、明治中頃から大正にかけて、デカンショ節は、書生節としての雰囲気や歌詞を加えながら全国を駆け巡り、かたやこの頃から始まる新聞社等による新作歌詞の募集では、篠山城、八上城などの文化遺産や黒豆や栗などの産物を題材に、ふるさとへの思いを歌詞に刻みこんだものが多く登場し、さらに郷土色豊かな民謡へと厚みを増していった。



デカンショ祭(篠山城跡)

昭和に入ると、丹波篠山も徐々に戦争の渦に飲まれていく。「春日まつりだ 鉾山神輿、いのる武運を 神かけて♪」前線にいる郷土の若者に送られた慰問絵葉書には、郷土の祭の情景に無事を祈る思いが込められたデカンショ節の歌詞が記されていた。

戦後、それまで各地区で行われていた盆踊りを統一、民謡デカンショ節と踊りが一体化していく。昭和28年(1953)に第1回デカンショ祭りが河原町の河川敷で開催され、デカンショ祭が誕生する。篠山城跡に会場を移し、人々は地域や団体で連を編成して参加するようになり、祭の規模は徐々に拡大、兵庫県を代表する夏祭となる。昭和45年(1970)には日本万国博覧会に400人が浴衣を着て出演する

など、日本の高度成長期を背景に、地域の人々は、こぞってデカンショ祭に情熱を注ぎ込んだ。この頃のデカンショ節には、「世界平和」、「テレビ・ラジオ」、「国体」など近代的な言葉による明るい歌詞が加えられていく。

デカンショ節は、それぞれの時代が描かれた連綿と続く時代絵巻であり、ふるさとの記憶である。



丹波焼 登り窯

歌い継がれるデカンショ節

毎年8月15日・16日、町家の軒先の提灯に火が灯される頃、篠山城跡に組まれた櫓から、デカンショ節が聞こえてくる。

デカンショ祭は、盆踊りから受け継いだ親しみやすさがあり、踊りの輪に気軽に誰でも飛び込める気安さがある。また、地元の高校やデカンショ節保存会では、デカンショバンドやジュニア競演会などに力を入れており、祭りは日頃の成果を発表する場であると共に、あらゆる世代が楽しみにして参加する「ハレ」の場となっている。



高校生によるデカンショバンド

人々は、歌い継ぐことを通じて、民謡の世界そのままにふるさとの文化と伝統的な暮らしを守り伝えてきた。300番を超えるデカンショ節の歌詞に、今も人々は新たな時代を投影し、新たな丹波篠山を後世に歌い継ぐ取組みを脈々と続けている。

デカンショ節からのメッセージ

デカンショ節を歌うとき、人々は、先人がいかに地域の文化遺産や産物を大切に、そして誇りにしていたかを知る。文久元年（1861）建立の能舞台、そこで行われる元朝能、そして城を囲む武家町と商家町など守り抜き残された景観が、その思いを伝えている。また、昭和56年（1981）、城下町地区にある明治24年（1891）建築の地方裁判所が、都市計画道路上にあることから壊されようとした時、地域の人々の懸命の努力により、曳家工法で方向転換し建物を残したことは、何を大切にすべきかを示すエピソードとして語られている。



城下町の町並



丹波焼製造風景

農村の暮らしの中で、デカンショ節に縁深いものとして丹波杜氏がある。「灘の名酒は どなたがつくる おらが自慢の 丹波杜氏 ♪」は、灘五郷の酒を天下に高く知らしめた丹波杜氏が、地域の人々の誇りとなっていることを示している。また、作陶の様子がユーモアを交えて歌われている丹波焼は、多くの窯元は半農半陶と言われるスタイルで陶器を作っていたことで、大規模化することなく、のどかな窯業集落の景観と作陶の技を伝えている。デカンショ節は、こうした暮らしを明るく歌に刻むことで、丹波篠山の人々を鼓舞し応援し続けてきたのであろう。

デカンショ節には、人々の喜怒哀楽や心意気、希望、誇りと共に、地域の文化遺産や産物が歌に織りなされてきた。歌われるたび、歌の中の風景が、地域の人々の共通の風景となり心を繋いでいく。そして、デカンショ節は、歌の世界そのままに残る多種多様な文化遺産や産物、かけがえのない風景を後世につたえることの大切さを人々に語りかけている。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	でかんしょぶし デカンショ節	市無形 (民俗)	江戸時代から続く民謡「デカンショ節」は、明治31(1898)年、篠山出身の遊学生たちから旧制一高(現東京大学)の学生たちに伝わり、「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で芝居する♪」で始まる歌は、たちまち多くの学生や若者から愛唱され全国に広まった。 歌詞には、天下普請の篠山城をはじめ、伝統的な特産物である丹波黒大豆・丹波松茸・ぼたん鍋、日本の酒造技術の礎となった丹波杜氏の姿など数多くの歴史文化関連資産が歌いこまれ、有形・無形の文化を伝えている。	
2	ささやまじょうあと 篠山城跡	国史跡	デカンショ節「並木千本 咲いたよ咲いた 濠に古城の 影ゆれて♪」他幾度となく歌詞の中で歌われる篠山城跡は、天下普請により慶長14年(1609)年、徳川家康が山陰道の要衝に築いた城であり、平成12年には大書院が復元され一般公開されている。現在は、三の丸跡をデカンショ祭の主会場とし、篠山城跡の存在は市民の心のシンボルとなっている。	
3	ささやまじょうかまちちく 篠山城下町地区	国重伝建・未指定 (文化的景観)	デカンショ節「オラが殿さは 六万石よ 今じゃのどかな 城下町♪」と歌われる城下町は、篠山城跡を核とし、江戸時代の武家町や商家町の町割りを残すなど城下町の要素を全体によく残している。デカンショ祭りが行なわれる8月には提灯などで町中が彩られ、情緒豊かな歴史的風致を伝える。	
4	おだがきしょうてん 小田垣商店 (店舗他9件)	国登録有形 (建造物)	デカンショ節「丹波篠山お茶栗さんしょ 野には黒豆 山の芋♪」と歌われる篠山の特産物のひとつである黒豆(黒大豆)を扱う小田垣商店は、塗屋づくりの重厚な外観を見せ、18世紀後期の老舗商店の屋敷景観をつくっている。	
5	ほうめいしゅぞう 鳳鳴酒造 (主屋他8件)	国登録有形 (建造物)	デカンショ節「酒は呑め呑め 茶釜でわかせ お神酒あがらぬ 神はない♪」と歌われる酒を造り続けている造り酒屋のひとつが鳳鳴酒造である。主屋は街路に面したむくり屋根の切妻造、つし2階で、吹き抜けで店舗も兼ねる。	
6	きゅうあんまけじゅうたく 旧安間家住宅 (現武家屋敷安間家史料館)	市有形 (建造物)	デカンショ節「丹波篠山鳳鳴の塾で 文武きたえし 美少年♪」と歌われている鳳鳴の塾(現県立鳳鳴高等学校)は、藩校振徳堂を前身とする。安間家は藩主青山家の家臣で御徒士町の下級武士であったが、振徳堂において和算の指導にあたり学問の振興に努めた。現在は武家屋敷安間家史料館として、和算関連史料等を展示し当時の武家の暮らしを伝えている。	

7	あおやまれきしむら 青山歴史村 (旧澤井家長屋門、青山文庫、丹波篠山藩「青山家」古文書、大学衍義補版本他)	市有形 (建造物、典籍、古文書、歴史資料)	デカンショ節「論語孟子も 読んでは見たが 酒をのむなと 書いてない♪」青山歴史村(旧青山家別邸)に残る「大学衍義補(だいがくえんぎほ)」(寛政4年=1792)「通鑑覧要(つがんらんよう)」(天保5年=1834)「刪訂古今文致(さんていこきんぶち)」(慶応3年=1867)の三種類の版本(約1200点)は、いずれも篠山藩が翻刻したもので、これら漢学書関係の版本は全国的に珍しい。また、青山文庫の和漢籍655点は近世国文学の一般資料となっており、漢籍・歴史・地誌など学問を尊んだ篠山藩の気風を伝える書籍も数多く残されている。	
8	おうじやまいなりしゃほんいん 王地山稲荷社本院	未指定有形 (建造物)	デカンショ節「花のお江戸で平左衛門が 天下無敵の勝名乗り♪」と歌われる平左衛門は、篠山藩主青山忠裕が老中を勤めた文政年間の頃、江戸両国の将軍上覧の大相撲で、篠山藩のお抱え力士たちは連敗していた。ある年、篠山から来た王地山平左衛門ら8名の力士たちが現れ連戦連勝してしまった。忠裕は喜び、褒美をとらそうとしたがどこにもいなので調べてみると、全員が領内のお稲荷さんの名前だったと云う伝説が伝わっている。王地山はもみじの名所でもあり、負けきらい稲荷として多くの参拝者が訪れる。	
9	やかみじょうあと 八上城跡	国史跡	デカンショ節「島と浮かぶよ 高城山が 霧の丹波の 海原に♪」と歌われる八上城跡は、高城山に本城があり、織田方の明智光秀による丹波攻略の主戦場として、また近接する近世城郭篠山城と対比する城として日本城郭史上貴重な遺構となっている。	
10	たんばささやましふくすみでんとうてき 丹波篠山市福住伝統的 けんぞうぶつぐんほぞんちく 建造物群保存地区	国重伝建	デカンショ節「夜霧こめたる 丹波の宿の 軒におちくる 栗の音♪」と歌われる宿が、宿場の宿を指すものであるかは定かではないが、江戸時代、旧山陰街道が貫く福住には本陣がおかれ、宿場町として賑わった。宿場町に連なる農村集落は茅葺農家でありながら宿場を補完する役割を担ったとされ、この歌の情景そのままの歴史的景観を今に伝えている。	
11	にしおけじゅうたく 西尾家住宅 (主屋他10件)	国登録	デカンショ節「灘の名酒はどなたがつくる おらが自慢の丹波杜氏♪」全国でも名高い丹波杜氏だが、西尾家はその技術をもって江戸時代から篠山藩ご用達として酒造業を営んでいた。江戸時代後期の俳人西尾武陵の生家でもある。享保18年(1733)建築の主屋を屋敷景観の中核とし、旧山陰街道の街道景観形成に寄与する貴重な建物である。	
12 ・ 13	たんばたちくいかま(さくようぎほう) 丹波立杭窯(作窯技法) たんばたちくいのはりがま 丹波立杭登窯 こたんばこれくしょん 古丹波コレクション	国選択 県有形 (民俗) ・ 県有形 (工芸品)	デカンショ節「嫁がほしゅうて 轆轤を蹴れば 土はくるくる 壺になる♪」と歌われる丹波焼は日本六古窯として知られ、現在でも大規模な製陶工場等はなく、各窯元はほとんどが家内制で約60軒の窯元が丹波焼を生産している。丹波焼における連房式登窯は近世初頭と言われており、この時期に穴窯から登窯に移行したものと考えられており、窯の全長が40メートル以上と長いことも窯の特徴の一つとなっている。また、古丹波コレクションとして312点が県指定文化財として丹波古陶館に保管され一般・公開されている。	

14	たんぱとうじ (しゅぞうぎじゅつ) 丹波杜氏 (酒造技術)	未指定 (民俗)	デカンショ節「灘の名酒は どなたがつくる お らが自慢の 丹波杜氏 ♪」と歌われる丹波杜氏は その名声は古くより聞こえ、その歴史は宝暦年間 (1751) にさかのぼる。「出稼ぎしょ」は「デカ ンショ」の語源の一つとも言われている。昭和初 期には杜氏約 780 人、蔵人を合わせ約 4100 人が 海外を含む各地で活躍した。高度経済成長ととも に、厳しい作業環境を敬遠され、機械化で省力化 も進み、現在は杜氏 40 人、蔵人約 130 人となっ ている。	
15	まるやましゅうらく 丸山集落	未指定 (伝統 的建造物群)	デカンショ節「雪がちらちら 丹波の宿に 猪が 飛びこむ 牡丹鍋 ♪」と歌われる情景が丹波篠山 にある。丸山集落は篠山城下から約 3 キロ北部の 多紀連山山麓にある集落で、総家屋数 12 件の旧 茅葺民家の特徴となっている。傾斜を活かし石積 みと一体となった戌亥蔵と築地塀に囲まれ、妻入 りや中門づくりの茅葺民家が今も現役として残 り 3 棟の民家が農家民泊 (オーベルジュ) として 活用されている。	

※デカンショ節出典 「篠山の民謡」昭和 32 年 篠山民謡保存会発行、「丹波篠山デカンショ祭五十回記念誌」平成 14 年 デカンショ祭 50 回記念事業特別委員会発行

- (※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例: 国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。
- (※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1 デカンショ節



2 篠山城跡



3 篠山城下町地区



4 小田垣商店



5 鳳鳴酒造



6 旧安間家住宅



7 青山歴史村 (旧澤井家長屋門、大学衍義補版木)



8 王地山稲荷社本院



9 八上城跡



10 丹波篠山市福住伝統的建造物群保存地区



11 西尾家



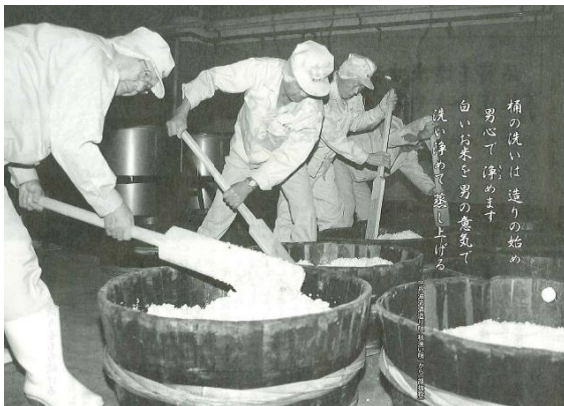
12 丹波立杭窯



1 3 古丹波コレクション



1 4 丹波杜氏



1 5 丸山集落



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
10	丹波篠山デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶-

(1) 将来像 (ビジョン)

日本遺産第1号に認定された、「丹波篠山デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」。

丹波篠山デカンショ節の歌詞には、城下のまちなみや田園風景、古民家ホテル、篠山城と八上城、丹波焼、丹波木綿、お能、お苗菊など、誇れる資源がたくさん歌われている。現在も「デカンショ節大賞」と題して、新たなデカンショ節の歌詞を公募しており、市民がまちの誇りを歌詞に残し、歌い継ぐ仕組みがある。

春には桜街道、田んぼでのカエルの大合唱、夏にはホテル、星空、デカンショ祭、秋にはロンドンのような朝霧、秋祭り、紅葉の山なみ、黒枝豆の収穫体験、そして、冬にはぼたん鍋など、市民だけでなく、観光客にとっても、四季折々の景色や食を楽しめる環境がそろっている。

日本遺産認定後、丹波篠山市は、テレビや雑誌などにも数多く取り上げられるようになり、観光客や移住者が増加している。今後も、丹波篠山市は、国内外の方へ日本遺産まちの魅力を知っていただき、持続的な観光誘客およびブランド力向上を目指すとともに、市民にも「世界に誇れる素晴らしい資源に恵まれたまちである」ことを再認識いただき、誇りや愛着を持って暮らし続けることができるまちを目指す。

具体的な活動として、2025年に開催される「大阪・関西万博」を契機として、オール市民参加で「丹波篠山国際博 日本の美しい農村、未来へ」を開催する。この丹波篠山国際博では、市民と民間事業者、市が一丸となった市内の各地でのイベント開催を予定している。これらは、市民や観光客には新しい気づきや誇りが生まれるとともに、地域コミュニティのつながりをより強固なものとし、地域を活性化するレガシーを作り出す。

このように、これからも丹波篠山市は、市民の誇りの醸成や地域のブランド力向上を目指し、ふるさとの魅力や愛着を「ふるさとの記憶」として民謡に乗せて歌い継ぐ取組をすすめていく。

(1) 総合計画における日本遺産の位置づけ

丹波篠山市には、人や地域が相互の信頼関係を築きながら、活気あるまちを実現することができる素地がある。さらに、京都・大阪・神戸の大都市圏からも近く、丹波篠山市にあるさまざまな資源を生かして交流や定住に結びつけるなど、新しいまちづくりを切り開く可能性がある。市の第3次総合計画では、日本遺産を活用したまちづくりを全体の共通の視点としている。それは、利便性や経済性を追求した都市的なまちづくりばかりでなく、丹波篠山の「農」や「食」を基盤として、地域資源とともに生きる共生のまちづくりを進め、人々の暮らしや文化が息づき、将来にわたって皆の「ふるさと」であり続けたいというものである。また、総合計画前期基本計画（令和3～7年）では、日本遺産の構成文化財である美しい景観の保全、農業振興、歴史・伝統・文化の継承と芸術の振興を進めつつ、

これらを支える教育や担い手の育成を図り、日本遺産を観光の重要な資源として保存・活用することで、将来にわたって地域の潤いを高め、まち全体が活性化することを未来像に掲げている。

（２）魅力あるまちづくり

丹波篠山の美しい山並みや田園、農村集落の景観は「日本の原風景」ともいわれており、訪れる人の心に安らぎや郷愁を誘っている。また、無電柱化や道路の美装化などの景観整備が完了した城下町地区や、国の重要伝統的建造物群保存地区の景観は、歴史情緒あふれる資源として観光客らの人気を博している。近年では、観光で訪れたことをきっかけに丹波篠山が好きになり、移住する人や新規起業が増加傾向にある。このため、観光客らが丹波篠山ファンになり、移住や起業につながられるよう、こうした美しい景観を市民とともにしっかりと守り、後世につなぐまちづくりを進めていく。

歴史と文化、芸術については、日本遺産の構成文化財であるデカンショ節や丹波焼をはじめ、八上城跡、春日能、お苗菊のほか、数多くの歴史文化の薫りが今も漂っている。また、陶芸やガラス、革工芸などの様々な分野の芸術家が好んで丹波篠山に移住し、古民家や空き店舗を活用した起業が増えてきている。今後、地域資源の情報発信や普及啓発をより一層強化し、多くの観光客を誘致することで地域が元気になり、地域が潤うことで市民の暮らしが豊かになり、構成文化財の保存・活用にもつながるという継続的な好循環を目指す。

基幹産業である農業については、平成２１年、市は日本の農業の都を目指すことを「農都宣言」として宣言し、担い手の育成や特産物の振興、自然環境に配慮した農業と農村づくり等の取組を進めてきた。令和３年２月１９日には「丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～」が日本農業遺産に認定され、丹波篠山農業に新たに名誉ある歴史を刻んだ。今後、生産者とともに美しい田園を保存・活用する取組を進めるとともに、生産者は特産物の栽培を通して収益を生み、その栽培技術が次世代へと引き継がれていくよう、生産者、行政、ＪＡなど関係機関が連携して丹波篠山農業の活性化に取組、本場本物の味を全国へ継続して発信していく。

（３）誇り・教育（継続的な地域の担い手育成）

丹波篠山市の資源を守り、引継ぎ、磨き上げるのは「人」である。市民が丹波篠山市民であることに自信と誇りを持ち続け、日本遺産を活かした市民主体のまちづくりが一層盛り上がるよう、構成文化財等の保存・継承にかかる人材育成や、観光まちづくりを推進する人材育成等に取り組む。市民活動では、デカンショ節保存会や丹波焼陶工などの市民が講師となって、次世代の子どもたちに伝統芸能や伝統技術を継承する活動が広がってきている。このデカンショ節にある丹波篠山の一つ一つの要素を引き続き担う個人、団体、地域の担い手育成が将来にわたって継続的に展開されるよう、市民、行政、関係団体等がしっかりと連携して取り組んでいく。また、学校・家庭・地域が連携してふるさと教育に継続的に取り組む体制づくりを推進する。

（４）まちの活性化

日本遺産を活用することで、地域が潤い、まちが活性化することは重要である。丹波篠山市では、「丹波篠山観光まちづくり戦略」において、「２０３０宿泊者数倍増」といった中長期の具体的な目標を持って観光振興施策に取り組んでいる。日本遺産構成文化財など、

地域資源をつなげた観光ツアーの造成をし、観光客の滞在時間の延長、宿泊者数の増加につなげていく。

観光まちづくりの新たな組織として、観光協会が中心となり、商工会や民間企業等で構成する組織「M a s s e (マッセ)丹波篠山」も誕生した。この組織では、丹波篠山の暮らしを体験できる「里山暮らしツアー」の編集・販売などを行っている。

さらに、構成文化財を所有、管理する団体や企業が、それぞれに保存・活用を行いながら収益に結びつけている。こうした取組を将来にわたって継続し、さらにまちを活性化させていく。

併せて、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている篠山城下町地区や福住地区などの日本遺産構成文化財では、古民家を活用したレストランや宿泊施設などの起業が多く、地域の大きなにぎわいの創造につながっている。観光客が構成文化財に訪れることで直接的な収益となり、市は人材育成や普及啓発、情報発信により伴走支援することで、各構成文化財が魅力を増し、民間に収益が生まれるという好循環が生まれる。

2025 大阪・関西万博の開催に合わせ、丹波篠山国際博「日本の美しい農村、未来へ」を市民をあげて開催し、丹波篠山の魅力ある日本文化を発信し、インバウンド誘客につなげる。

このように、日本遺産を通じた創造的なまちづくりを進めることにより、市民にとってはさらに誇りと魅力を感じることにつながり、観光客にとっては丹波篠山の文化や人々の暮らしが魅力的なものとして観光の目的となり、多くの観光客が訪れることにつながっていく。そして、観光産業の活性化により地域が潤い、新たな雇用が創出されることで移住や定住につながるという持続可能な好循環を創出し、日本遺産のまち・丹波篠山を未来へとつないでいく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：観光客入込み数（人）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	1,681,663	1,865,448	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	2,098,000	2,131,000	2,164,000	2,197,000	2,230,000	2,263,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		丹波篠山の日本遺産のストーリーのサブタイトル「民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」の通り、丹波篠山の魅力は市内のあちこちに所在することから、市内に訪れる観光客を指標として設定。観光庁「共通基準による観光入込客統計」による丹波篠山市独自調査。目標値の設定は、丹波篠山観光まちづくり戦略（令和2年策定。令和6年までの5か年計画）に基づく。なお、同戦略は令和6年度改訂予定のため、目標値変更の可能性あり。				

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－B：デカンショ祭の参加者数（人）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	1,917 コロナによりオンライン視聴者数	6,377 コロナによりオンライン視聴者数	46,000			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産のストーリーであるデカンショ節に触れられる最も主要な機会であるデカンショ祭への参加者数。これまでの実績をもとに平均値として1日当たり35,000人を設定。（2023年度は、コロナ後、初開催かつ荒天による1日限りの開催であり、過去最高値を記録した）				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：デカンショ節大賞応募数（件）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	126	63	155			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	110	110	110	110	110	110
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		毎年、新しいデカンショ節の歌詞を公募する「デカンショ節大賞」への応募件数。市内の人口は減少傾向にあるが、応募数は過去3年の平均値を維持するものとして設定。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：丹波篠山市4文化施設入館者数（人）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	59,697	86,506	97,098 *2月現在			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	114,232	119,322	124,638	130,191	135,992	142,051
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産ガイドダンス施設であるデカンショ館を含む丹波篠山市4つの歴史文化施設における入館者数。目標値の設定は、丹波篠山観光まちづくり戦略（令和2年策定。令和6年までの5か年計画）で設定した伸び率をもとに設定。なお、同戦略は令和6年度改訂予定のため、目標値変更の可能性あり。				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が棄損滅失していない割合（％）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	100	100	100			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	100	100	100	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		全構成文化財の維持に努める。各施設の管理者、担当者が状況把握を実施する。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：宿泊客数（人）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	93,621	107,555	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	124,000	132,000	140,000	148,000	156,000	164,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		目標値は、丹波篠山観光まちづくり戦略（令和２年策定。令和６年までの５か年計画）で設定した８,０００人増／年を設定。なお、同戦略は令和６年度改訂予定のため、目標値変更の可能性あり。）宿泊施設への聞き取り調査により把握。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：観光消費額（百万円）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	18,720	21,635	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	19,774	20,224	20,674	21,124	21,574	22,024
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		兵庫県による観光消費額調査から観光消費額単価を割り出し、観光入込客数に乗じた金額。目標値は、観光入込客数に応じて観光消費額単価に乗じた金額。				

(3) 地域活性化のための取組の概要

丹波篠山市は、風土、名所、名産品などが歌詞に盛り込まれ歌い継がれてきた「丹波篠山デカンショ節」を日本遺産のストーリーとしている。そのため、日本遺産認定をきっかけとして策定した「丹波篠山ブランド戦略」では「①美しい町並みと農村景観」、「②歴史と文化、芸術」、「③命輝く自然環境」、「④丹波篠山人」、「⑤農の都、食の聖地」を地域の大切な資源と位置づけ、市民が誇りを持ち、市民が主役のまちづくりを進めてきた。その結果、移住者や観光客が増加し、テレビなどのメディアにも数多く取り上げられ、10月にはオーバーツーリズムが懸念されるまでになった。今後も、市民や民間事業者が活躍し、官民一体となり日本遺産に歌われる丹波篠山のブランドを盛り上げていく。

(1) 「美しい町並みと農村景観」

丹波篠山には美しい農村の景観や、篠山城跡や八上城跡、城下町や宿場町のまちなみ、丹波焼の「焼きものの里」等があり、しばしば「日本の原風景」と形容されている。これらを保全・継承するとともに、景観の質を高めていく。

- ・大阪国際万博に合わせて、丹波篠山国際博を実施。日本遺産のまちの魅力を国内外の人に知っていただいたり、市民が誇りを持つ契機とする。
- ・計画的な町並み景観と田園や里山景観の保全による「農」の風景と調和する参画と協働の景観まちづくりを実施する。
- ・歴史的な町並みの保全・継承と、町並み景観を観光資源として活用した空間づくりを目指すとともに、毎年開催している景観写真コンクールや景観フォーラムなどを引き続き実施することで活用と市民の意識醸成を促進する。
- ・農地や里山の保全維持に努め、田園風景と里山や鎮守の森が調和した景観まちづくりを推進する。
- ・景観重要建造物の指定。町並み景観保全。修景、町並みと調和した開発誘導や道路整備を実施する。
- ・保存地区（篠山地区、福住地区）においてまちなみ保存会が活動しており、引き続き市民の景観保全活動を支援する。

(2) 「歴史と文化、芸術」

丹波篠山市では、京都の文化の影響を色濃く受けた歴史的な町並みや田園景観の中で受け継がれた曳山（ひきやま）祭礼や民俗芸能などの伝統行事、特産物や郷土料理のほか、日本六古窯の丹波焼、丹波杜氏、伝統的な建築工法や農業技術などが受け継がれている。これらの保存継承はもちろん、文化財のみに注目するのではなく、市民の創造的な芸術活動を推進し、独創的な人材を育成するため環境を整えていく。

- ・市民に誇りをもたらし、丹波篠山市の歴史文化を活かしたまちづくりに積極的な参加を促す。
- ・丹波篠山市文化財保存活用地域計画に基づき、計画的に歴史文化を活かしたまちの活性化を目指す。
- ・伝建地区の保存修理を促進し、保存地区の歴史的風致を高めることでまちの活性化を目指す。

【主な取組】

- ・デカンショ節保存会の支援・育成
- ・丹波篠山デカンショ祭開催、日本デカンショ節大賞の実施
- ・文化財の保存・活用の支援と育成
- ・関連計画や制度と連携した指定文化財の保存・活用の充実・強化
- ・地域の歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む地域団体等の活動を支援

例：市民団体がクラウドファンディングを活用し、鉾山巡行の「鉾」を110年ぶりに復活。市は広報での協力を実施。市は今後も引き続き市民活動を支援する。

- ・丹波篠山市の歴史文化を次世代に継承していくための団体や人材の育成

（３）「命輝く自然環境」

農産物だけでなく、豊かな田園風景や自然環境があることで「丹波篠山ブランド」が確立される。そのため、子どもたちがふるさとに誇りを持てる環境教育を進め、自然豊かな田園風景を守っていく。さらに、「守る」だけでなく、まちづくりを上手に「活かす」ことで、まちのイメージ全体の向上にもつなげていく。

【主な取組】

- ・ワクワク農村未来プランを掲げ、市民が主体的に集落の未来を考え、実践する・学校などと共に地域の特色を活かした環境教育・環境学習を促進
- ・ふるさとの川水路再生事業
- ・森林の整備を促進し、木材や木質資源として活用
例：里山フォーラムを開催する。
- ・森林整備を行う人材育成プロジェクト
- ・省エネルギーの取組や再生可能エネルギーの利用を積極的に啓発
- ・計画的な森林整備のため、様々な支援策を構築するとともに、木材や木質資源の活用を促進

（４）「丹波篠山人」

丹波篠山市の資源を守り、引き継ぎ、磨き上げるのは「人」である。人口減少、少子高齢化が進む中で、丹波篠山の人は、助け合いの気質がとても高く、コミュニティが維持されてきた。おもてなしの気持ちを持ち、思いやりあふれる丹波篠山人を育むとともに、地域で生きる喜び、ふるさと丹波篠山を大切にする心、誇りに思う気持ちを高めるよう進める。

また、地域の歴史や文化を学び、ふるさとを誇りに思う子どもたちを育むため、学校・家庭・地域が連携してふるさと教育の推進に取り組む体制づくりをさらに推進する。

神戸大学の協力を得て、篠山イノベーションズスクール（ローカルビジネススクール）を設置。これまで日本遺産など地域資源を活用した農業、カフェ、飲食店、民泊、工房の開設など、幅広い分野での起業につなげた。今後も農村の未来を創る人づくりを進める。

- ・歴史、生物、生活や特産などを学習する際の教材として「わたしたちの丹波篠山市」「丹波篠山ふるさとガイドブック」を活用し、地域学習に取り組む。
- ・丹波篠山市の郷土料理のテキストを活用し郷土味学講座（郷土料理講習会）を実施。伝える側、継承していく側、双方の食育力を高め活性化を目指す。
- ・郷土愛を育む現地学習会、郷土に伝わる古文書に親しみながら丹波篠山の歴史を学ぶ講座等を開講する。
- ・市長による学校日本遺産出前講座や、小学生児童による「お城こどもガイド」など、子どもたちが学ぶ喜びや地域と共に生きる喜びを実感する教育を推進する。
- ・丹波篠山市の文化講座「郷土愛を育む現地学習会、おもしろゼミナール、丹波篠山の歴史を学ぶ講座」などを開催する。
- ・篠山イノベーションズスクール「ローカルビジネススクール」で人材を育成する。
- ・地元食材を守り、育て、活用し、食育を高めるための機会の場を提供。食育推進大会の実施などにより、情報発信をする。
- ・学校給食センターでは、地元で生産された食材を利用した伝統食の献立や新しい献立を考案し、食材を積極的に使用する。

(5) 「農の都、食の聖地」

丹波篠山の農と食の強みを生かし、観光客の滞在時間・日数の増加を目指し、市内では官民が協力し、誘客を促進する。関係人口や移住の創出を図り、日本遺産「デカンショ節」でも歌われる黒豆等の農産品、建築、陶芸、商いなどの「暮らしに結びついた産業」を次世代に継承する。

また、丹波篠山は全国的に有名な黒大豆「丹波黒」を生み出し、丹波篠山市の知名度やイメージ向上に大きく貢献し、令和3年「日本農業遺産」に認定された。

国登録有形文化財である小田垣商店や鳳鳴酒造は、地元でつくられた米、黒豆を使用しており、伝統的な農と食の技術が今も受け継がれている。また両社ともに、施設を観光拠点として見学できるよう提供している。丹波篠山の強みである自然、伝統と歴史、景観と特産物の魅力の発信とともに観光客をもてなし、まちの活性化に取り組んでいく。

- ・海外旅行者やメディアに対し、民間企業も巻き込んだ積極的なPRを行う。
- ・市、各種団体、市民が連携して誘客を図り、観光消費額を向上させまちの活性化を目指す。
- ・丹波篠山の地の利と資源を活かした観光を提供し、お客さまをもてなす。
- ・農業を維持していくために、農業に携わる人を掘り起こし、農業のビジョンである「人・農地プラン」のもとに、活性化を目指す。
- ・経営感覚に優れた認定農業者などの農家育成や集落営農の組織化・法人化を進め、これらの担い手農家が地域の水田農業を支えていく体制をつくる。
- ・大規模経営農家と小規模・家族農家、集落営農組織が連携し、集落・地域の農地を守り、特産物を生産していく体制づくりを目指す。
- ・黒大豆など伝統的な農産物の品質向上と生産量を維持するため、栽培の省力化や作業の機械化によるまちの活性化を目指す。

【主な取組】

- ・2025年丹波篠山国際博を開催。「日本の美しい農村。未来へ」をキーワードに市民が力を合わせて国内外へ情報発信・おもてなしを実施
- ・M a s s e 丹波篠山による里山暮らしツアー
- ・日本遺産構成文化財を活用した小田垣商店の店舗古民家活用、鳳鳴酒造の酒造見学やデカンショ踊り体験、丸山集落の古民家活用、丹波立杭陶磁器協同組合での登り窯イベント
- ・日本遺産構成文化財で開催する現代アート展（まちなみアートフェスティバル）
- ・日本遺産構成文化財での周遊インバウンド誘客
- ・丹波篠山認定ローカルガイド養成事業
- ・市内に増加している工芸家によるオープンファクトリー（丹波篠山クラフトヴィレッジ）
- ・普及パンフレットの作成、多言語整備、説明看板の設置
- ・宿泊施設の整備、充実支援
- ・観光情報サイトやSNSを活用した情報発信
- ・農業の育成と支援

(4) 実施体制

(1) 事業主体

○丹波篠山市日本遺産・創造都市推進委員会

丹波篠山市では、「デカンショ節」と「六古窯（丹波焼）」の2つの日本遺産を活かして、市民のまちへの愛着と誇りを育み、地域の活性化につなげるため、「丹波篠山市日本遺産・創造都市推進委員会」が本計画の主体となって、日本遺産の推進事業や創造的なまちづくりを進めていく。

【構成メンバー】

地域プロデューサー 小山龍介（日本遺産プロデューサー）、丹波篠山デカンショ節保存会、丹波篠山市商工会、丹波立杭陶磁器協同組合、丹波篠山観光協会、Masse 丹波篠山、一般社団法人ウイズささやま、丹波篠山市自治会長会、知識経験者

(2) 取組を円滑に行うための協力団体

①「構成文化財等の保存、継承」

「丹波篠山市文化財保存活用地域計画推進協議会」を設置し、市民・行政・専門家による役割分担のもと、一体となって歴史資産の保存・活用や、担い手育成などの事業を進める。また本計画における「構成文化財等の保存、継承」に取り組む分科会の役割を果たす。

構成メンバー：市教育委員会、まちづくり協議会、まちなみ保存会等

②「日本遺産を活かした観光」

商工や観光、文化財に関わる団体や企業がそれぞれに日本遺産を活かした観光誘客を行う。また、これらの団体で構成する「Masse 丹波篠山」が設立され、日本遺産を活かした「里山暮らしツアー」の企画・販売など、観光まちづくり事業を進める。

構成メンバー：丹波篠山市商工会、丹波篠山観光協会、一般社団法人ウイズささやま、株式会社アクト篠山、株式会社NOTE

[人材育成・確保の方針]

外部連携に関して、日本遺産プロデューサーの小山龍介氏に、地域プロデューサーとして深くかわっていただき、知見を広げ、ノウハウを蓄積していく。

人材育成事業として、神戸大学と連携し、丹波篠山市での起業を促進する「イノベーターズスクール」事業として、多様な人材育成メニューを実施。日本遺産のまち丹波篠山の地域文化を生かした起業家を育成し、未来を支える人材育成と関係人口拡大につなげる。

丹波篠山ふるさと応援団事業として、地域外の方が丹波篠山市内の地域と密に関われる関係づくりを行い、丹波篠山ファンの増加と関係人口の拡大につなげる。

学校教育では、市長自らが市内の小学校を訪問し、日本遺産のまちの魅力を教える授業を実施しており、今後も継続する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産を保存活用しようとする市民や民間事業者の活動を支援し、市民の誇りの醸成と民間による収益化につなげる。

市は、人材育成や普及啓発、情報発信などを行うことで、市民や民間企業の活躍を促進する。市民には誇りが生まれ、民間企業には収益が生まれるという持続可能な観光振興へつなげる。

○日本遺産構成文化財を活用した観光誘客および民間企業等による収益化

構成文化財を所有、管理する団体や企業がそれぞれ活発に保存活用を行っており収益に結びつけている。

黒豆を扱う小田垣商店は、現代芸術家の杉本博司氏監修のもと、日本遺産構成文化財である古民家の店舗に大掛かりな改修を加え2021年に再オープン。カフェを新設し人気を博している。今後は宿泊スペースも増設される予定。

集落丸山は、一棟貸しの宿泊施設である。限界集落での古民家活用事業により雇用も生まれている。移住者によるレストランや蕎麦屋も人気を博している。

850年前から伝わる丹波焼は、現在も60余の窯元が伝統を継承している。丹波立杭陶磁器協同組合が、産地のシンボルとして登り窯を保存活用しているほか、丹波焼を用いて飲食を提供する店舗も増えてきた。

今後、陶芸家の自宅や作業場に、宿泊できる「陶泊」事業を本格始動する。

日本遺産構成文化財である「篠山城(大書院)」と「安間家史料館」の指定管理者である一般社団法人ウイズささやまは、過去に「日本遺産モデルツアー」の実施と効果検証をしており、その経験を活かし収益化させるべく観光業を取得した。また同社は、観光協会、商工会、一般社団法人ノオトなどの民間企業が横断的に連携し組織した「Masse丹波篠山」にて、滞在型の観光や移住も視野に入れたツアーとして「里山暮らしツアー」を造成した。今後、収益化に取り組んでいく。

○日本遺産構成文化財での面的周遊とインバウンド誘客

伝統的建造物群保存地区に選定されている篠山城下町地区や福住地区などの日本遺産構成文化財では、古民家を活用したレストランや宿泊施設などの起業が多く、地域の大きなにぎわいの創造につながっている。それらを観光ルートや通訳ガイドにより、面的につなげ滞在時間の延長や再訪を促す。観光客が構成文化財に訪れることで直接的な収益となり、市は人材育成や普及啓発、情報発信により伴走支援することで、各構成文化財が魅力を増し、民間に収益が生まれるという好循環が生まれる。

○ふるさと納税の活用

納税者がふるさと納税を行う際、使用用途として「日本遺産に関すること」と指定できるよう、選択項目を設けている。また、ガバメントクラウドファンディング制度(ふるさと納税の寄付金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募る仕組み)を開始し、令和5年には、城下町地区などの「桜守と一緒に丹波篠山市の市木「桜」を守りたい」プロジェクトを展開し、想定額を大幅に超える 2,698,000 円の支援をいただいた。今後も積極的に活用し、日本遺産の活用につなげていく。

○継続的な地域の担い手の育成

デカンショ節保存会等の団体、構成文化財はじめデカンショ節に歌われる丹波篠山の一つ一つの要素を引き続き担う個人、団体、地域の担い手育成に努める。

- ・デカンショ節保存会支援、農業担い手育成と集落営農促進、丹波焼陶工支援
- ・重要伝統的建造物群保存地区のまちなみ保存会などと連携した町並みと景観の保全
- ・観光関連事業の造成、誘客を図る事業体の支援

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

丹波篠山で長く愛され歌い継がれてきた民謡「デカンショ節」をはじめとして、「デカンショ節」の歌詞の世界を体現する15の文化財が日本遺産のストーリーの構成文化財となっている。

これらは指定文化財だけでなく未指定の文化財が含まれているが、丹波篠山市では平成23年策定の「歴史文化基本構想」において市内全ての文化財を「歴史文化まちづくり資産（歴史資産）」と位置づけ、地域総がかりで保存・活用に取り組んできた。平成23年から継続的に「地域の歴史文化を活かしたまちづくり事業」を実施し、地域主体の人材育成・普及啓発・保存・活用事業に対して支援を行っており、市民自ら歴史資産を発見し、学び、保存し、活用するという好循環を生み出し、日本遺産の保存・活用を促進する基盤づくりに寄与している。なお、同事業はふるさと納税を活用している。

本市の歴史資産の保存・活用の取組の特徴として、古民家再生に代表される多種多様な主体による歴史的建造物の保存・活用の取組がある。契機となったのは、構成文化財の一つである篠山城下町地区の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）選定であり、町並み景観の保全魅力増進が進むにつれて、伝統的建造物の空き家を活用した店舗、宿泊施設の事例が増え、文化財の活用が保存につながるという新たな好循環を生み出した。また、まちなみアートフェスティバルや丹波篠山ひなまつりなど、市民主体の取組が活発化し、さらなる魅力増進と来客増加につながっている。平成24年には、福住地区で本市2地区目の重伝建選定があり、同地区でも篠山地区と同様に伝統的建造物の活用事例が増え、人口減少地域であった同地区において移住者が増加しつつあり、城下町同様に市民主体の取組も増加している。面的な広がりをもった2つのエリアが観光拠点に新たに加わったことで、本市の魅力増進や観光客誘致に大きく貢献している。

重伝建地区以外での活用事例として、丸山集落の取組が挙げられる。限界集落寸前だった集落の伝統的な農家住宅を改修し、宿泊施設にすることで、住民自らそこで収益を上げながら、建物と集落を維持するという、全国的にも稀有な好事例となった。また、篠山城下町の重伝建地区外に位置する、小田垣商店と鳳鳴酒造という2つの登録文化財があるが、黒大豆と地酒という本市の特産を古くから商いし、収益を上げながら、文化財建造物を維持している。両店舗とも、伝統を重んじながら、新たな商品開発に余念がなく、創造農村である本市の代表的な存在となっており、魅力増進に大きく寄与している。

本市ではこれらの取組みを持続的に発展させるため、令和3年に文化財保存活用地域計画を作成した。同計画は、歴史文化基本構想の理念を踏襲しつつ、より具体的なアクションプランとし、これまで以上に歴史資産の保存・活用、担い手の育成など、総合的に取り組むこととしている。今後は、地域計画を本市の文化財保護施策の根本に据え、市内に数多く残されている文化財を保存・活用するための取組を計画的に実施するとともに、本市の魅力あふれる歴史文化を市内外に積極的に発信しながら、本市の歴史文化を活かしたまちづくりをさらに推進していく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	事業の全体統括を行う組織の整備		
概要	日本遺産に関する事業を進める統括的な役割を担う日本遺産・創造都市推進委員会を中心とした組織の整備及び運営		
	取組名	取組内容	実施主体
①	関係する部局・地域による定例の連絡会議の実施	日本遺産・創造都市推進委員会の適正な委員選定及び連絡会議運営による着実に事業を実施する。	丹波篠山市・委員会各構成員
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産創造都市委員会に参画する民間組織の数 (人)		6
2022			6
2023			7
2024	〃		6
2025	〃		6
2026	〃		6
2027	〃		6
2028	〃		6
2029	〃		6
事業費	2024 年度：40 千円 2025 年度：40 千円 2026 年度：40 千円		
継続に向けた事業設計	市内で活発に活動する民間事業者を招き、事業実施や次年度に向けての意見交換を実施する。		
事業費	2027 年度：40 千円 2028 年度：40 千円 2029 年度：40 千円		
継続に向けた事業設計	市内で活発に活動する民間事業者を招き、事業実施や次年度に向けての意見交換を実施する。		

(事業番号 1-B)

事業名		事業の企画実施を行う組織の整備	
概要		計画に基づく事業を中心となって企画・実施・支援する役割を担う組織の整備	
	取組名	取組内容	実施主体
①	民間主体のテーマ別ワーキンググループ設置	Masse 丹波篠山は観光協会、商工会、民間企業等で構成設立し、「行政連携・調査研究」、「滞在ツアー、送客の実施」などのテーマで、各団体の横断的な連携を基に観光まちづくりを推進。市は活動を支援する。	Masse 丹波篠山、丹波篠山市
②	日本遺産の取組に協力している個人サポーター・地域プレイヤーの組織化	2025 大阪・関西万博に合わせて開催する丹波篠山国際博の取組を契機として、市内の地域プレイヤーの部会等での協議や活動を推進する。	丹波篠山国際博推進市民委員会
③	法人パートナーとの協業	市と包括連携協定を締結する民間事業者と協業する。	丹波篠山市、民間事業者
④	ふるさと納税の受付等、収入基盤の整備・財源の明確化	ふるさと納税の使途として「日本遺産のまちの魅力発信」を設定。また、ガバメントクラウドファンディングでストーリー関連事業についてプロジェクト化し資金調達を行う。	丹波篠山市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ふるさと納税の使途として「日本遺産のまちの魅力発信事業」を選択した金額（千円）		4,720
2022			5,628
2023			集計中
2024		〃	4,000
2025		〃	4,000
2026		〃	4,000
2027		〃	4,000
2028		〃	4,000
2029		〃	4,000
事業費		2024 年度：2,000 千円 2025 年度：2,000 千円 2026 年度：2,000 千円	
継続に向けた事業設計		ふるさと納税について広告宣伝を行い、「日本遺産のまちの魅力発信」についての事業費を確保する。	
事業費		2027 年度：2,000 千円 2028 年度：2,000 千円 2029 年度：2,000 千円	
継続に向けた事業設計		ふるさと納税について広告宣伝を行い、「日本遺産のまちの魅力発信」についての事業費を確保する。	

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	他の行政計画への位置づけ		
概要	地域における文化資源の総合的な保存・活用の中で、日本遺産の位置付けや他の施策との関係性を明確化		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域の長期的構想への組み込み（歴史文化基本構想や文化財保存活用地域計画、観光振興計画含む）	行政計画に日本遺産構成文化財の保存等やストーリー等の活用を位置づけ、活用の促進を図る。丹波篠山国際博を契機とした集落・地域づくりのあり方を示す「日本の美しい農村、未来へ」計画に位置づける。	丹波篠山市
②	コンセプト実現のための中長期戦略の改定	観光まちづくり戦略を改訂し、策定した戦略に定められたコンセプトに基づいた事業実施を推進する。	丹波篠山市
③	地域の未来の姿を可視化し共有	歴史文化基本構想、文化財保存活用地域計画、丹波篠山グランドデザイン 2 0 4 0 について周知共有する。	丹波篠山市
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産との関連性を明確化した計画数（件）		3
2022			3
2023			3
2024		〃	3
2025		〃	3
2026		〃	3
2027		〃	3
2028		〃	3
2029		〃	3
事業費	2024 年度：0 千円 2025 年度：0 千円 2026 年度：0 千円		
継続に向けた事業設計	行政計画への位置づけ及び着実な計画実行を進める。		
事業費	2027 年度：0 千円 2028 年度：0 千円 2029 年度：0 千円		
継続に向けた事業設計	行政計画への位置づけ及び着実な計画実行を進める。		

(事業番号 2-B)

事業名	外部有識者の知見を取り入れる仕組みの整備		
概要	日本遺産創造都市推進委員会において、有識者を招き、外部の知見を取り入れる仕組みの整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	外部有識者を招いた日本遺産・創造都市推進委員会の開催	日本遺産・創造都市推進委員会において、日本遺産プロデューサーなど知識経験者を招き、外部の知見を取り入れる。	丹波篠山市・日本遺産創造都市推進委員会
③			
④			
⑤			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産・創造都市推進委員会の開催頻度（回）		2
2022			2
2023			2
2024	〃		2
2025	〃		2
2026	〃		2
2027	〃		2
2028	〃		2
2029	〃		2
事業費	2024 年度：0 千円 2025 年度：0 千円 2026 年度：0 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産創造都市推進委員会において、有識者を招き、外部の知見を取り入れる委員構成とする。		
事業費	2027 年度：0 千円 2028 年度：0 千円 2029 年度：0 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産創造都市推進委員会において、有識者を招き、外部の知見を取り入れる委員構成とする。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名		日本遺産を活用する人材・事業者の育成・確保	
概要		日本遺産を活用した事業等に主体的に取り組む人材・事業者を育成	
	取組名	取組内容	実施主体
①	プロデューサーの起用、参画の促進	日本遺産プロデューサーを地域プロデューサーとして迎え、日本遺産創造都市推進委員会の構成員等、継続的に関わり続けてもらう体制を構築する。	丹波篠山市
②	地域プレイヤーの探索及び育成	丹波篠山国際博を契機とした市民活動の推進による、地域プレイヤーの掘り起こしと育成、その他、デカンショ節保存会、篠山イノベーターズスクール、農業者、森林整備を行う人材の育成、歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む地域団体等の活動支援を行う。	丹波篠山市
③	日本遺産活用のワークショップの実施	ローカルガイド養成講座など、情報発信に資する能力開発ワークショップを実施する。	丹波篠山市
④	地域プレイヤーの活躍の場の設定	お城こどもガイド、ボランティアガイド、インバウンドガイド育成、ライティング講座の実施および育成後の活動支援	丹波篠山市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	人材育成活動実施数(種)		6
2022			7
2023			8
2024	〃		7
2025	〃		7
2026	〃		7
2027	〃		7
2028	〃		7
2029	〃		7
事業費		2024 年度：15,000 千円 2025 年度：15,000 千円 2026 年度：15,000 千円	
継続に向けた事業設計		各テーマに沿った人材育成事業を実施する。	
事業費		2027 年度：15,000 千円 2028 年度：15,000 千円 2029 年度：15,000 千円	
継続に向けた事業設計		各テーマに沿った人材育成事業を実施する。	

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	日本遺産に関する文化資源や景観・風景の面的な整備		
概要	日本遺産のストーリーに関連する地域空間において、文化資源や景観・風景等を整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化資源や景観・風景の整備	構成文化財をはじめ、風景を保全する目的での景観整備を進める。	丹波篠山市
②	地域の建築遺産等を活用した宿泊施設、レストラン等の面的な整備	重要伝統的建造物群保存地区の建物修景工事について、補助を行い、景観の保全を進める。	丹波篠山市
③	来訪者の導線・モデルルートについて検討	周遊モデルコースの検討及び「歩くことを楽しむための道」フットパスのコース設定を検討する。	丹波篠山市
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	景観保全としての整備事業件数(件)		8
2022			8
2023			8
2024	〃		7
2025	〃		5
2026	〃		5
2027	〃		5
2028	〃		5
2029	〃		5
事業費	2024 年度：20 百万円 2025 年度：20 百万円 2026 年度：20 百万円		
継続に向けた事業設計	景観保全、修景のための補助及び建設事業を実施する。		
事業費	2027 年度：20 百万円 2028 年度：20 百万円 2029 年度：20 百万円		
継続に向けた事業設計	景観保全、修景のための補助及び建設事業を実施する。		

(事業番号 4-B)

事業名		ストーリーに関する施設設備の整備	
概要		ストーリーの体験に必要なとなる解説等の充実のための施設設備を整備	
	取組名	取組内容	実施主体
①	ストーリーの全体像を伝える日本遺産コーナーなどの拠点づくり	デカンショ節のストーリーのガイド的役割を担うデカンショ館において展示やポスターを更新する。	丹波篠山市
②	サブストーリーを伝える拠点づくり（陶泊）	丹波焼陶芸家の工房に宿泊し、丹波篠山の暮らしや陶芸体験ができるコンテンツの販売のためのハード・ソフトを整備する。	丹波立杭陶磁器協同組合
③	サブストーリーを伝える拠点づくり（八上城）	史跡八上跡整備基本計画に基づき八上城跡の保存・活用のための整備事業を実施する。	丹波篠山市
④	『「陶の郷」を中核とした丹波焼の郷文化観光拠点計画』に基づく改修	丹波焼の展示や販売を行う「陶の郷」を中心としたハード・ソフトの整備	丹波立杭陶磁器協同組合・丹波篠山市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	デカンショ館来館者数（人）		11,028
2022			16,021
2023			集計中
2024		〃	13,500
2025		〃	13,500
2026		〃	13,500
2027		〃	13,500
2028		〃	13,500
2029		〃	13,500
事業費		2024 年度：16,182 千円 2025 年度：16,182 千円 2026 年度：16,182 千円	
継続に向けた事業設計		デカンショ館の維持管理を継続して実施する。	
事業費		2027 年度：16,182 千円 2028 年度：16,182 千円 2029 年度：16,182 千円	
継続に向けた事業設計		デカンショ館の維持管理を継続して実施する。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	商品化のための DM0 や事業者との連携		
概要	日本遺産のストーリーを体験するツアーの販売		
	取組名	取組内容	実施主体
①	旅行商品開発・販売のための事業者との連携	デカンショ節に唄われる丹波篠山の魅力を体験できるツアーを実施する。	民間事業者
②	旅行商品開発・販売のための事業者との連携・プロモーション	日本遺産のストーリーに唄われる丹波篠山の魅力を体験できる「里山暮らしツアー」を販売する。	Masse 丹波篠山・丹波篠山市
③	旅行商品開発・販売のための事業者との連携・プロモーション	自転車を活用した日本遺産サイクリングコースの提案や、E-bike や普通自転車を用いたサイクリングツアーを販売している。	民間事業者・丹波篠山市
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	デカンショ館来館者数（人）		11,028
2022			16,021
2023			集計中
2024		〃	13,500
2025		〃	13,500
2026		〃	13,500
2027		〃	13,500
2028		〃	13,500
2029		〃	13,500
事業費	2024 年度：16,182 千円 2025 年度：16,182 千円 2026 年度：16,182 千円		
継続に向けた事業設計	デカンショ館の維持管理を継続して実施する。		
事業費	2027 年度：16,182 千円 2028 年度：16,182 千円 2029 年度：16,182 千円		
継続に向けた事業設計	デカンショ館の維持管理を継続して実施する。		

(事業番号 5-B)

事業名		体験コンテンツの販売	
概要		日本遺産のストーリーの丹波篠山の暮らしを体験するコンテンツの販売	
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイドコンテンツ企画、ガイド人材の育成・研修	デカンショ節に唄われる伝統工芸“丹波焼”を生業とする職人の暮らしを起点に丹波篠山の魅力を味わう「陶泊」を販売する。	民間事業者
②	体験コンテンツの販売	陶の郷でデカンショ節に歌われる丹波焼の陶芸体験を販売する。	民間事業者
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	陶の郷での陶芸体験参加者数（人）		20,736
2022			20,773
2023			集計中
2024	〃		20,000
2025	〃		20,000
2026	〃		20,000
2027	〃		20,000
2028	〃		20,000
2029	〃		20,000
事業費		2024 年度：10,000 千円 2025 年度：10,000 千円 2026 年度：10,000 千円	
継続に向けた事業設計		陶の郷の運営管理を行う。	
事業費		2027 年度：10,000 千円 2028 年度：10,000 千円 2029 年度：10,000 千円	
継続に向けた事業設計		陶の郷の運営管理を行う。	

(事業番号 5-0)

事業名		ストーリー関連商品の販売	
概要		デカンショ節の歌詞に歌われる丹波篠山の特産品などを販売	
	取組名	取組内容	実施主体
①	関連商品・サービスの開発・販路拡大	デカンショ節の歌詞に歌われる丹波篠山の特産品などをふるさと納税で販売。販売中の商品以外に商品を増加させる。	丹波篠山市
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ふるさと納税の使途として「日本遺産のまちの魅力発信事業」を選択した金額（千円）		4,720
2022			5,628
2023			集計中
2024	〃		4,000
2025	〃		4,000
2026	〃		4,000
2027	〃		4,000
2028	〃		4,000
2029	〃		4,000
事業費	2024 年度：2,000 千円 2025 年度：2,000 千円 2026 年度：2,000 千円		
継続に向けた事業設計	ふるさと納税について広告宣伝を行い、「日本遺産のまちの魅力発信」についての事業費を確保する。		
事業費	2027 年度：2,000 千円 2028 年度：2,000 千円 2029 年度：2,000 千円		
継続に向けた事業設計	ふるさと納税について広告宣伝を行い、「日本遺産のまちの魅力発信」についての事業費を確保する。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号 6 - A)			
事業名	学校教育との連携		
概要	地域の児童生徒が日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるよう学校教育と連携し日本遺産に触れる機会を提供		
	取組名	取組内容	実施主体
①	小・中学校での普及啓蒙（出前授業、総合学習、ガイド育成、体験など）	市長の学校訪問にて日本遺産であるデカンショ節を体験する出前講座を実施する。	丹波篠山市
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	デカンショ節の出前講座を受けた児童生徒の日本遺産ストーリー理解度（％）		100
2022			100
2023			100
2024	〃		100
2025	〃		100
2026	〃		100
2027	〃		100
2028	〃		100
2029	〃		100
事業費	2024 年度：0 2025 年度：0 2026 年度：0		
継続に向けた事業設計	学校教育現場での出前講座事業を継続して実施する。		
事業費	2027 年度：0 2028 年度：0 2029 年度：0		
継続に向けた事業設計	学校教育現場での出前講座事業を継続して実施する。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号 6-B)			
事業名	地域住民への普及啓発		
概要	地域住民が日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるよう継続的な普及啓発の実施		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域・民間を巻き込むための普及啓発	丹波篠山市の文化講座事業（市民文化講座、おもしろゼミナールなど）を実施する。	丹波篠山市
②	商品・事業アイデアコンテストの実施	丹波篠山の魅力を歌詞にして募集し、新たな歌詞として追加する仕組みとして、日本デカンショ節大賞を開催する。	丹波篠山市
③	地域を巻き込んだ継続型イベントの実施	デカンショ祭の開催。デカンショ節を感じられずるメインのイベントとして、地域内外を問わず訪れる多くの方へ普及啓発、魅力発信を行う。	デカンショ祭振興会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	丹波篠山デカンショ節大賞受賞者数（人） （デカンショ節の新しい歌詞として公式に認定し追加する数）		5
2022			5
2023			5
2024			5
2025	〃		5
2026	〃		5
2027	〃		5
2028	〃		5
2029	〃		5
事業費	2024 年度：400 千円 2025 年度：400 千円 2026 年度：400 千円		
継続に向けた事業設計	募集・発表に際して広報宣伝を行い、新たな日本遺産のストーリーを増やす。		
事業費	2027 年度：400 千円 2028 年度：400 千円 2029 年度：400 千円		
継続に向けた事業設計	募集・発表に際して広報宣伝を行い、新たな日本遺産のストーリーを増やす。		

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号 7 - A)			
事業名	ホームページ等における情報発信		
概要	ストーリーに関する情報とともに、来訪者が必要とする情報を取得できるようホームページ等を整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ウェブサイトの作成・継続的な更新	観光サイト、デカンショ祭ホームページ、その他市の魅力を発信する各種ホームページ、SNS で継続的に発信を行う。	丹波篠山市
②	コンテンツの多言語化・多文化化対応	民間とのサービス連携による多言語対応した Web サイトで情報発信を行う。	丹波篠山市
③	民間主体の情報発信を支援するための講座の開催	日本遺産ストーリーのデカンショ節に唄われるまちの魅力を発信するための市民参加ワークショップ等を開催する。	丹波篠山市
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	まちの魅力を発信する媒体数(種)		7
2022			7
2023			7
2024	〃		7
2025	〃		7
2026	〃		7
2027	〃		7
2028	〃		7
2029	〃		7
事業費	2024 年度：1,260 千円 2025 年度：1,260 千円 2026 年度：1,260 千円		
継続に向けた事業設計	各種ホームページ・SNS を運用する。		
事業費	2027 年度：1,260 千円 2028 年度：1,260 千円 2029 年度：1,260 千円		
継続に向けた事業設計	各種ホームページ・SNS を運用する。		